

共に生きる

WITH LIFE

2017
ウィズライフ
第45号

テーマ
目の不自由な人へのサポート



私たちの「願い」

私たちは、公益に資する法人として、

- 「高齢者も障がいのある人も社会で共に暮らし、共に生きることがノーマルである」というノーマライゼーションの理念に基づき、
- 高齢者や障がい者が安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備・向上を通して、
- すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の増進に寄与することを目的に取り組んでおります。

私たちのこの「願い」のため

尚一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう

心からお願い申し上げます。

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団
理事長 土屋 公三

WITH LIFE 第45号 目次

4 ノーマライゼーション対談

目の不自由な人の安全・安心を支えよう

札幌市視聴覚障がい者情報センター
事務職員 小本 栄輝さん
公益社団法人札幌市視覚障害者福祉協会
視覚障害生活訓練専門職員 小宮 康生さん

10 ここが知りたい

盲導犬ユーザーが望むサポート

12 明るいフクシ探検記

札幌市視聴覚障がい者情報センター

14 小中学生による「安全・快適アイデア」コンテスト

16 金沢・愛知福祉視察研修レポート

18 「ノーマライゼーション住宅財団」活動紹介

2017年4月1日発行

発行人／土屋公三

発行所／公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団◎

〒060-0042 札幌市中央区大通西16丁目2-3ループル16 9F

TEL 011-613-7551 FAX 011-612-8431

URL <http://normalize.or.jp/>

【制作スタッフ】 ●編集協力／株式会社日本商工振興会

●編集総括／奥野 彰 ●ライター／大藤紀美枝 ●写真／酒井伸一
●レイアウト／高部友恵 ●表紙イラスト／佐藤正人 ●題字／須田照生

【印刷】株式会社須田製版

我らサポーター

土屋 公三

株式会社土屋ホールディングス 創業者会長
公益財団法人ノーマライゼーション住宅財団 理事長



毎週月曜の朝、一時帰宅していた房子さんを自ら運転の車で送る。

土屋公三さん・博子さん夫妻の長女、房子さん（四九）は、平日は療育施設でリハビリに励み、週末に帰宅。家族のぬくもりに、房子さんの笑顔が増す。

房子さんは会話はままならないけれど、

「あ・り・が・と・う」

その一言は、初めて出会った人にも届く。

公三さんは言う。

「房子は人の手を借りることが多いからどこで、何をすることも

『あ・り・が・と・う』の連続です。

起業、バリアフリー、ノーマライゼーション…

娘の障がいを取り組むきっかけをつくり、

娘の『あ・り・が・と・う』に励まされ続けています」

日曜の朝はのんびりと、

月曜の朝は早々にスイッチ・オン。

父は車のハンドルを握り、

娘は母に手を振り、

それぞれの新たな一週間が始まる。

写真／酒井伸一
文／大藤紀美枝



困っていること、できないことに心を配り 目の不自由な人の安全・安心を支えよう

目が見えなかったり見えにくかったりすると、生活のさまざまな場面に大きな危険が潜んでおり、駅のホームから転落し、電車にはねられ亡くなる痛ましい事故も起きています。そこで、視覚に障がいがある小本栄輝さんと視覚に障がいのある人の生活訓練に携わる小宮康生さんに、視覚障がいに伴うバリアとそこに潜む危険、求められるサポートについて語り合っていました。

冬は歩き慣れた道にも危険がいっぱい

——お二方は旧知の間柄ですが、改めて自己紹介していただけますか。

小本 私は一九七四年から札幌市の職員として勤務していただのですが、二十代半ばにベーチエツト病による視覚障がいが発症し、休職して三年間盲学校に通いました。八四年に復職がかない、現在、札幌市視聴覚障がい者情報センター（以後、情報センター）で、主に事務と中途失明者の点字訓練を担当しています。

小宮 私は埼玉県にある国立身体障害者リハビリテーションセンター学院を修了後、視覚障害生活訓練専門職員として札幌市視覚障害者福祉協会（以後、札幌協）に就職し、情報センターからの依頼で、中途

失明した方のお宅や病院などに出向き、白杖はくじょうを使っての歩行訓練をはじめ、室内における家事の方法や買物物の仕方など日常生活での動作に関する訓練を担当しています。

——ありがとうございます。さて、小本さんは、白杖を使って一人で通勤なさっているそうで、冬場はよほど気を使うのではないですか。

小本 ええ。自宅からバスと地下鉄を乗り継いで職場まで通っているんですが、団地の中は、雪が積もると歩道と車道の区別がなくなります。マンホールやロードヒーティングがあるところはガクンと低くなっていますし、道がすり鉢状になっているところは特に危なくて怖い。そんなこんなで、足元に神経を集中して「ちよこちよこ歩き」します

札幌市視聴覚障がい者情報センター
事務職員

小本 栄輝さん

公益社団法人札幌市視覚障害者福祉協会
視覚障害生活訓練専門職員

小宮 康生さん

札幌市視聴覚障がい者情報センター（札幌市中央区大通西19丁目）

視覚や聴覚に障がいのある人に対する情報提供、社会参加、コミュニケーションを支援する各種事業を行っている。

視覚障がい関係では、点字図書館、中途失明者社会適応訓練事業、福祉用具・情報支援機器体験コーナー（要予約）など。視覚に障がいのある人が利用できる制度や日常生活全般についての相談も来館、電話などにより受け付けている。

◎利用時間／8:45～17:15（土・日・祝日・年末年始休み）

◎問い合わせ／1階事務室 TEL.011-631-6747 FAX.011-631-6751



自身の経験を踏まえ、熱く語り合う小本さん（右）と小宮さん（左）。

から、家からバス停まで五分で行けるところ、冬は七、八分かかります。

小宮 雪が積もったり溶けたりして状況は常に変化していますから、冬道を一人で歩くのは非常に難しいと思います。視覚に障がいのある方で、「夏は一人で歩いても、冬は歩けない」という方は少なくないですね。

小本 冬は、通い慣れた道で何十回と迷っています。これはおかしいと思って、ケータイでなじみのタクシー会社に連絡し、「バス停の近くにいるはずだから、捜して乗せてほしい」とお願いしたことが

ありますが、タクシーの運転手さんに見つけてもらえなかったんです。

小宮 で、どうしました？

小本 タクシー会社とケータイでやりとりしていたら、「近くの家の人に番地を聞いてください」と言うんです。私はほとんど見えないから、家を探すのって難しいんですよ。何とかたどり着いた家の方に番地を教えてください、タクシーに迎えに来てもらいました。

小宮 吹雪いているときなど、特に迷いやすいですから、普段一人で歩いている方も自宅

からタクシーを利用するなど、自衛したほうがよいですね。

小本 私も吹雪のときはそうしています。冬道に限らず、いろんな「落とし穴」がありますから、事故を未然に防ぐためにも、「もつと視覚障がい者への声かけを」という声

が各所で挙がっています。白杖を持って単独で歩いていると、大丈夫そうに見えるのか、世の人はほとんど声をかけてくれません。また、「点字ブロックがバス停や店に誘導してくれる」、「盲導犬が行きたいところに連れて行ってくれる」と思っている人も多いようです。

小宮 そう。正しく理解されていないことが多々ありますね。視覚障がいは、一般に「目が見えない」と捉えられがちですが、全く見えない方もいれば、見えにくい方もいます。そして、見えにくさも一人一人異なることを心に留めていただきたいと思います。

ちなみに見えにくい状態のことを「ロービジョン」と言います。従来、弱視、低視力と呼ばれた状態です。（本誌13ページ「明るいフクシ探検記」に視覚障がいの体験レポートを掲載）

目の不自由な人に 自然な声かけを

——目の不自由な人に、どう声をかけてよいのか、わからず、ちゅうちよする人も多いようです。

小宮 視覚に障がいのある方が困っているようであれば、「お手伝いしましょうか」と、まず一声かけてください。困っていないければ、「大丈夫です」と答えるでしょうし、困っていれば、どう困っているのかおっしゃるはずですよ。それに対して手伝ってさしあげればよいわけです。

「声をかけたら、いや、大丈夫」と言われて、拍子抜けした」とおっしゃる方もいますが、声をかけられて悪い気はしないでしょ。ねっ、小本さん（笑）。小本 そりゃそうです（笑）。ただし、「大丈夫ですか」と声をかけられると、「大丈夫でない」とは言いづらくて、頑張っちゃったりするんで、「お手伝いしましょうか」と声をかけていただいたほうが自然に応答できますね。

——目の不自由な人のお手伝いをするに当たって、留意すべきことを教えてください。

視覚障がいとは

めがねなどで矯正しても一定以上視力が上がらなかったり（視力障がい）、小さい穴からのぞいたときのように周囲が見えない・周囲は見えても真ん中が見えないなど視野が限られる（視野障がい）ため、日常生活に支障がある状態を「視覚障がい」という。その程度によって「盲（見えない）」と「弱視（ロービジョン：見えにくい）」に大別される。

公益社団法人札幌市視覚障害者福祉協会

（札幌市西区二十四軒2条6丁目 札幌市身体障害者福祉センター内）

視覚障がい者の環境改善、文化の向上、スポーツの振興、同行援護、社会適応訓練、研修活動、補装具および日常生活用具の斡旋・販売に関する事業を行っている。

札幌市からの委託で中途失明者の社会適応を促進する訓練を行い、視覚障がい者のための家庭生活訓練（生け花・料理・教養等各教室の開催）や社会生活訓練（卓球・バレーボール・ダンス等各教室の開催）も。また、新聞等の最新情報を点字により郵送またはインターネット配信で提供（有料）している。

◎問い合わせ／TEL&FAX 011- 644-8310



小本 栄輝 (こもと・えいき)

1974年札幌市職員となり市役所に勤務。81年視力低下のため休職し、北海道立高等盲学校専攻科に入学。84年同校を卒業後復職。札幌市視聴覚障がい者情報センターに勤務。現在、事務、点字の指導、視覚障がいに関する相談等を担当。61歳。

「お手伝いしましょうか」 見えない人も目えにくい人も、その一言に励まされます。

小宮 視覚障がいには情報不足による不自由です。視覚に障がいのある方が歩けないとすると、手足が動かないわけではなく、視覚からの情報が入らないことで、一歩が出ないということなんです。ですから、お手伝いするに当たって、情報を言葉で伝える必要があります。加えて、単に「段差があります」ではなく、「上り段差です」、「下り段差です」と、次の状況がしっかりわかる表現を心がけていただければと思います。

「左」、「前」、「後ろ」と、方向をはっきり示さなければ伝わりません。小本 視覚障がい者は、地下鉄など乗り慣れた駅のホームでは、大抵自分が乗る場所を決めています。私の場合、人の乗り降りの少ない乗降口を選び、乗車後は専用席の近くに立つか、座るかしています。時折、「空いている席がありますよ」と、引く張るようにして連れて行ってくださる

方がいますが、乗降口との位置関係がわからなければ、降りるとき混乱します。誘導してくださいるときは、できるだけ乗降口に近いところで、位置関係まで説明していただくと助かります。小宮 「こつちですよ」と引く張って行かれると、本当に困ると思います。誘導する側に主導権が行ってしまいますし、どの方向へ向かっていいのかもわからないから。誘導することを「手引き」と言い、通常、手引き者の肘あるいは肩につかまるかたちをとりますが、

小本さんは肩派ですよね。小本 そう。私は肩につかまらせてもらうのが、一番いいです。小宮 どのような手引きが歩きやすいかは、視覚に障がいのある方、お一人お一人異なりますから、手引きするときには、立ち位置は右側がいいか左側がいいか聞いて、希望する側に立ち、「肘か肩につかまってください」と声をかけるとよいですね。

ガイドヘルパー(※1)の育成に携わっていて思うのですが、多くの方が「目が不自由だともできないだろうから、何でもやってあげなければ」と思い、手取り足取りになっ

適切なサポートの源は正しい知識と思いやり

——道に迷ったり、落とし物をして困っているときはもちろん、普段も気軽に声をかけてほしいですね。小本 朝、バス停でバスを待つ

ていると、年配の男性で「今日は寒いね」といった具合に、ごく自然に声をかけてくれる人がいるんですよ。その一言が、すごくうれしいです。小宮 そうした自然な声かけができるって、いいですね。信号のない交差点で、停止した車の中から「渡っていい」と手振りですす光景を見たことがあるんですが、視覚に障がいのある方に対しては、車の窓を下ろし、「渡っていいですよ」と声をかけてほしいです。

——必要とするときに適切なサポートをするには、視覚障がいについての理解を深める必要がありますね。

小本 視覚障がいおよび視覚障がい者の現況を、誤解している人が多いように思います。

小宮 関心を持たないと、どんなことに困っているかわからないですからね。まず、関心を持つことが必要でしょう。小学校の授業で福祉について学んで、アイマスク体験などした子たちは、結構、声かけをしてくれます。「ごみ出しに行つて迷っていたら、通学時の子たちが声をかけてくれて、ごみステーションまで連れて行ってくれた」なん



小宮 康生(こみや・やすお)

1997年より札幌市視覚障害者福祉協会に勤務。視覚障害生活訓練専門職員として札幌市内の個人宅や病院等での訪問訓練を担当。専門学校非常勤講師、ボランティア育成講座の講師等も務め、視覚に障がいのある人の生活訓練教育および啓発に努めている。48歳。

視覚障がいのある方の不安や危険を除くには ご本人と周囲、医療と福祉の連携が必要です。

ていう話も聞きます。

小本 視覚障がいの原因となる病気のことを話しますと、私はベータチエット病により視覚障がいが生じたのですが、免疫抑制剤による対処療法が浸透して、早く治療すればある程度視力が保たれるようになり、今はベータチエット病による中途失明の人は少なくなりました。

小宮 中途失明者社会適応訓練を行うに当たって、お一人お一人の状況を伺いますが、ベータチエット病の方は少ないです。原因となる病気では、緑内障の方が多いです。一時期は糖尿

病性網膜症の方も多かったですが、ここ十年くらい少し減ってきています。網膜色素変性、黄斑変性の方もいらつしやいます。六十代過ぎ、七十代、八十代で失明されて訓練を始める方もいます。

小本 私が担当している点字訓練も高齢化が顕著です。

一層の充実が望まれる 同行援護サービス

——高齢になって失明した場合、歩行など生活に必要なさまざまな訓練を行い、それを

習得するのはなかなか難しいのでは。

小宮 ええ。高齢になってからの白杖を使った歩行訓練は、迷ったり転倒したときのことを考えると、そうそうお勧めできないです。着任して二十

年になりますが、白杖を使っている歩行訓練を希望する方は、当初に比べ、明らかに減ってきています。同行援護(※2)など公的なヘルプ制度が充実してきたことも後押ししていると思います。一方、何とか単独歩行できるロービジョンの方の訓練は増えています。

小本 一人で歩くより、手引きしてくれる人と歩くほうが安全ですからね。私も必要に応じて同行援護サービスを利用して

しています。ただ、利用するに当たって、契約している事業所に数週間前に申し込まなければならぬじゃないですか。だから、急に熱が出て病院に行かなければならぬってても利用できない難点があります。

小宮 うち(札幌協)の同行援護サービスは、三日前までは申し込んでくださるようお願いしています。そして、「体調が悪いときは連絡ください。至急対応します」としています。でも、他の事業所では、一カ月前には全体の予定を組まなければならないと思いますから、急な対応は難しいんじゃないでしょうか。

小本 利用時間も限られていますよね。

小宮 ええ。札幌協は、基本的に午前八時スタートで午後六時まで。お葬式、通院など、特別な事情がある場合は対応

可としています。事業所によって利用時間は異なります。

小本 視覚障がいの同行援護は、他の介助が優先されてしまいがちとの声も聞かれます。

小宮 報酬単価が低いですからね。経営難で同行援護をやめる事業所が増えているようです。

小本 十年、二十年前に比べると、いい時代になったと思いますが、急病のときのことを考えると、サービスがより充実することを願わずにいられません。

——ボランティアの方々の活躍もあるのでは。

小宮 頑張っているボランティア団体はありますが、その数は少ないですね。

小本 私の知っているボランティアの場合、同行ガイドは基本的に無料。送迎の際の交通費、昼をまたぐときは食事代、それと準備費として電話料金などを同行ガイド依頼者が支払います。

※1 ガイドヘルパー・移動介護従事者の通称。養成研修を受け、視覚障がい、全身性障がい、知的障がいのある人の補助を行うことができる公的資格。現在は移動支援従事者と呼ばれることが多い。
※2 同行援護・障害者総合福祉法に基づく障害福祉サービス。視覚に障がいのある福祉サービス利用者にガイドヘルパーが同行し、外出時に必要な情報提供、移動支援を行う。代読・代筆も仕事に含まれる。

小宮 事業所に所属して同行支援をすれば、お給料が出ます。そうした収入のあるなしが大きく影響すると思いますし、ボランティア活動に取り組みとういう人自体が減ってきているように思います。

小本 情報センターは、点訳、音訳のボランティア活動の拠点でもあります。参加者が減ってきています。それは全国的な傾向でもあるようです。

視覚障がい相談窓口の周知と利用促進を

——お二方は、相談業務に携わる中で、どのようなことをお感じですか。

小宮 「障害者手帳も持っていないし、これからのことを考えると不安だまらな」といった内容のお電話をもらうことがあります。そうした相談を受けて思うのは、情報化時代にあつて、視覚障がいに関するさまざまな制度や支援事業の情報が必要とする人に届いていないということ。

「視覚障がいに関する情報」というときは、情報センター、札幌視協、北海道盲導犬協会、北海道札幌視覚支援学校（旧北海道高等盲学校）などにお

問い合わせてください。常に連絡を取り合っているもので、いざどこかに問い合わせると、必要な道具、必要な訓練につなげてもらえます。

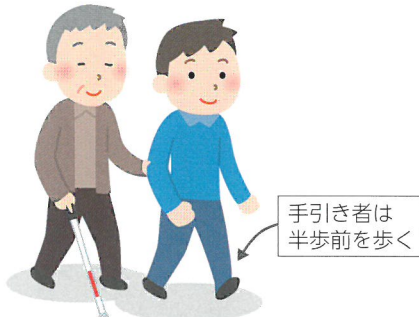
小本 情報センターがあること自体知らない人が多いです。病院から情報センター、札幌視協、北海道盲導犬協会、北海道札幌視覚支援学校などにつながる体制が整うとよいのですが。

小宮 近年、医療と福祉の橋渡しとして「スマートサイト」といって、医師がインターネットでスマートサイトに入ると、視覚障がいを支援する機関などの連絡先が印刷でき、その場で患者さんに渡すことができるなど、便利なシステムの北海道版が始まっています。不安になつている患者さんに情報が届いてほしいですね。

小本 同感です。私の経験を参考にしていただければと思うのですが、目がほとんど見えなくなつて十年くらい経つたとき、突然、耳が聞こえなくなつて治療しましたが、補聴器が必要な状態になりました。

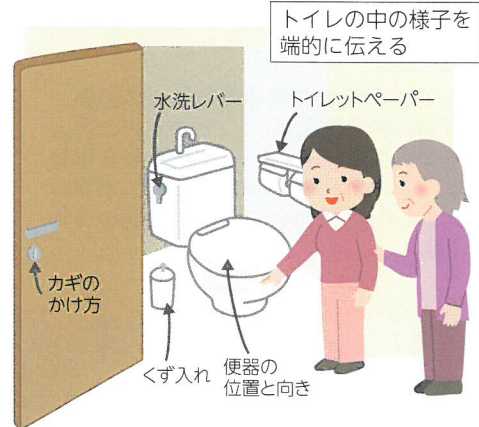
目の機能に関しては、比較的冷静に受け入れることがで

手引きをするときは…



- ① 状況に応じ、「お手伝いしましょうか」、「一緒にしましょうか」と声をかける。
- ② 手引き者は、視覚障がい者の横（希望する側）、半歩前に立ち、腕を自然に下げる。
- ③ 視覚障がい者がつかまって歩きやすい手引き者の箇所（肘または肩）に手を添えてもらう。
- ④ 視覚障がい者側に障害物がないか注意し、先に立って事前に足元の状況を具体的（例：下り段差があります）に説明しながら誘導する。
- ⑤ 歩く速さは、視覚障がい者に確認しながら調整する。

トイレへ案内したときは…



手引きした状態でトイレのドアを開け、中の様子（和式か洋式か、便器の位置と向き、トイレトーパーの位置、水洗レバーの位置と使い方、くず入れの位置、鍵のかけ方）を端的に伝える。

※視覚障がい者に対し手引き者が異性の場合、公衆トイレなど男女別のトイレでは、視覚障がい者と同性の利用者にゆだねる。

飲食をするときは…

正面にある物から説明する



- ① 視覚障がい者の手を、いすの背もたれと座面に誘導する。
- ② テーブルに対してまっすぐに座ってもらう。
- ③ 体の正面にある物を説明し、手で触れて確認してもらう。
- ④ 正面の物を中心に、周りの物の位置を「前後、左右」を用いて確認してもらう。



※時計の文字盤（クロックポジション）に例えて説明することもできる。

視覚障がいに関する主な相談窓口

札幌市視聴覚障がい者情報センター
TEL.011-631-6747

札幌市視覚障害者福祉協会 TEL.011-644-8310

北海道盲導犬協会 TEL.011-582-8222

北海道札幌視覚支援学校 支援センター部
TEL.011-561-7101

きたんですが、さらに聴力が衰えたときは、ものすごく悩ましました。ある人の「なるようにしかならない」との言葉で吹っ切ることができ、今日に至っています。

特に視覚障がい者のご家族にわかつてほしいのですが、目が不自由になったことで、ご本人は深く悩み落ち込んでいます。そんな状態で歩行訓練や日常生活訓練のことまで考えられないと思います。ですから一歩踏み出す意欲がわくまで、温かく見守ってください。

小宮 ご家族が視覚障がいの状態を理解することも大切です。ロービジョンのシミュレー

ションレンズを使って、ご家族に体験してもらおうと、「こんな見えなかつたんだ」と涙ぐむ方もいらつしやいます。あくまでも疑似体験ですから、ご本人はずっと大変な思いをなさっています。そこまで想像力を働かせていただければと思います。

誤解をなくすためにも正しい情報を発信

——中途失明の人が増えているとのことですが、全国あるいは全道に、視覚に障がいの人は、どのくらいいらつしやるのでしょうか。

小本 全国に約三十一万人、全道に約二万八千人、札幌市には四千五百人弱いらつしやいます。目が不自由だけれど身体障害者手帳を持っていないという人を加えると、その数は一気に増えると思いますよ。

小宮 日本眼科医学会の報告によると、百六十四万人も視覚障害者がいるというデータもあります。これは「視覚障がいの定義」をアメリカの基準に合わせて試算した結果です。「見えにくいこと」で不自由している方はたくさんいらつしやるのでしょうか。

——目の不自由な人の環境を改善していくには、何が必要ですか。

小本 視覚障がいにより、「文字が読めない」、「スムーズに移動できない」など、できないことはいろいろあります。しかし、努力することのできるようになることもあるんです。ですから、「できない」を「できる」に変える道を開く「場」や「人」との出会いをたくさん設けてほしいし、そこに積極的に参加してもらいたいです。

小宮 札幌協や情報センターなどでも、いろんな集まりやサークル活動の場を設けています。例えば、私が世話人を務める、「ロービジョンの方の集い」では、ロービジョンの見え方は、各々異なりますから、「自分の見え方を、人に伝えられるようになりましょう」との趣旨で、毎回、お一人お一人に「こういう見え方で、こうなんです」と自己紹介していただいています。

ロービジョンに関し、医療や福祉においても理解が行き届いてないように感じますし、ご家族にもなかなかわかってもらえない。だからこそ、自分の見え方を人に伝えるノウハウを身につけていた

だきたいと思います。また、「仲間がいる」と知っていたいただきたいです。

小本 白杖に関することも正しく知ってもらいたいですね。「見えない人」だけでなく「見えにくい人」も持って歩いていることを知らない人がいますから。

小宮 白杖を持ちながらスマホの画面を操作することは、ロービジョンの方の場合、よくあることですよね。

小本 それから、視覚障がい者はみんな点字が読めると思っている人がいますが、実際、点字が読める人は、視覚障がい者の中で一割ちよつとしかいないんです。高齢になってから

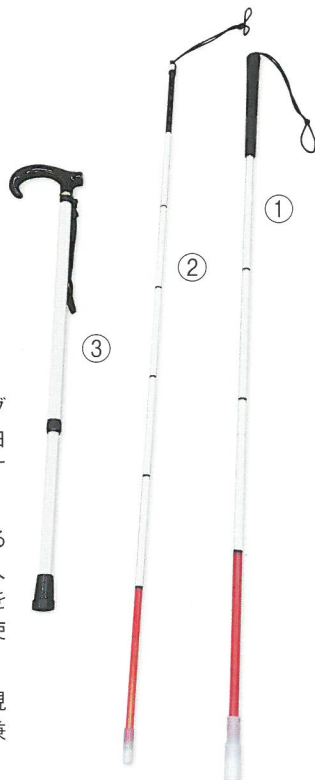
失明し点字訓練をしない人もいますし、パソコンやスマホなどを読む・書く手段として活用する人も増えています。

小宮 さまざまな誤解をなくすためにも、正しい情報の発信が求められますね。

小本 我々も、視覚障がい者に役立つ情報をどんどん発信していきましょう。

小宮 はい。障がいのあるなしに関係なく、困っている人を見かけたら、まず声をかけよう。そして必要に応じたサポートをする。そういう光景が、街のあちこちで見られるようになるとういことです。

(二〇一七年一月十日 当財団事務局にて)



白杖の種類

- ① 握りのしっかりしたロングタイプの折り畳み式白杖。もっぱら単独歩行するときに使う。
- ② コンパクトに折り畳める白杖。ロービジョンの人が、周囲に視覚障がいを知らせる意味合いで使用することが多い。
- ③ 体を支える機能を重視し、強さと握りやすさを兼ね備えた白杖。



盲導犬ユーザーが周囲に望むサポートはどんなこと？

盲導犬を連れていくけれど、何か困っている様子の人を見かけたとき、あなたはどうしますか。盲導犬を連れていく人に役立つサポートができるよう、また、盲導犬に対しては仕事のじやまをしないよう、知っておきたいこと・心がけたいことを北海道盲導犬協会の田中尚子さんに伺いました。



公益財団法人北海道盲導犬協会
訓練担当主任 盲導犬歩行指導員
たなか なおこ
田中 尚子さん
訓練中のフリーデル(メス1歳半)とともに

ユーザーの指示で
盲導犬は仕事に専念

—— 盲導犬は、どのような役目を担っているのですか。

田中 視覚に障がいのある方が歩くときは、「オリエンテーション&モビリティ(定位と移動)」、この二つの技術が必要になります。オリエンテーションとは、自分がいるところから目的地までの地図を覚えるとか、地図を覚えながら自分が今、どこにいるか判断しながら歩くことで、盲導犬と歩くときは、これをユーザー(視覚に障がいのある人)が担っています。また、道路をまっすぐ歩く、交差点で止まる、障害物をよけるといったモビリティに関する仕事は盲導犬が担っています。

ですから、ユーザーが地図

を的確に覚え、「ここで、右に」という風に支持を出さなければ、盲導犬は歩くことができません。

—— 目の不自由な人が盲導犬を希望する理由は。

田中 白杖を使っているけれど、うまく歩けなかったり、いろんなところに自分の好きなときに出かけたいといった「目的」ができたときに、「盲導犬をパートナーに」と考えるケースが多いようです。

また、雪道を杖を頼りに歩くのは相当難しく、そこで盲導犬を希望される方もいらっしやいます。それから、盲導犬は「生き物」という点において、視覚に障がいのある方の心の癒やし・支えとなり、新たな一歩を踏み出す力になることもあります。

特に雪道やホームでは
見守り・声かけを

—— 雪道は、盲導犬と一緒に、いろんな危険が潜んでいそうですね。

田中 雪壁があると雪に音が吸収され、聞こえにくくなりますし、雪のために歩道と車道の境目がわからなくなる箇所が多々あります。路面状況も刻々と変化しますから、盲導犬にも応用力が求められます。そのために、当協会の雪道訓練では、犬にいろんな状態の雪道を経験させます。例えば、雪山のため交差点と横断位置がズレていたとしても、安全に向こう側に渡れるよう、繰り返し訓練します。

—— 駅のホームも神経を集中して歩かなければ危ないですね。

田中 はい。ホームは音の反響などもあり、視覚に障がいがある方の方向の判断基準となる材料が少ないんです。また、島式ホーム(両側が線路に接しているホーム)は、たくさんの人で混雑していたり、柱やベンチがあつたりで、よけながら歩いていると、知らず知らずのうちに反対側の線路の際まで行ってしまうことがあります。

盲導犬を連れていても、ちょっとした方向のズレや勘違いで、ホームから足を踏み外してしまいかねません。

—— 十分注意をしても、ヒヤリとすることがあるのでは。

田中 そうですね。日本盲人会連合が二〇一一年に視覚に障がいのある方を対象行った「転落事故に関するアンケート

盲導犬とは

目の不自由な人の外出をサポートするために特別な訓練を受けた犬で、ハンドルのついたハーネス(白い胴輪)をつけ、ユーザーの指示により次の仕事を行う。

- ①道のとおりに歩く。②交差点で止まる。③障害物を避ける。④目的物(階段、ドアなど)を探して誘導する。⑤道路を横断する際、ユーザーの指示が適切でない場合は、動かないこと(不服従の服従)で危険を知らせる。また、身体障害者補助犬法により、公共の施設や交通機関、デパート、ホテルなどにも入ることが認められている。



▶ 雪道で出会ったときは…

「そこに、段差がありますよ。結構、溝深いです」といったように、ちょっとした視覚情報の提供が役に立つ。



▶ ホームで見かけたら…

線路側を盲導犬が歩くよう訓練されている。写真のようなホームドアが設置されていないホームでは、転落を防ぐため一層心を配り声かけを。



▶ 車中で見かけたら…

車中では盲導犬はフセの状態。盲導犬へは話しかけず・触らず・見つめずを徹底。ユーザーには気軽に声かけを。

※北海道盲導犬協会より訓練中の写真を提供いただき、参考写真としました。

公益財団法人北海道盲導犬協会

(札幌市南区南30条西8丁目1-1)

盲導犬の育成と視覚障がい者への盲導犬貸与、視覚障がい者の生活訓練、盲導犬を引退した犬のための老犬ホームを運営している。1960年の設立以来、育成総数は529頭。内、現在実働数95頭(北海道51頭、本州44頭)。※頭数は2016年11月1日現在

◎問い合わせ／TEL.011-582-8222 FAX.011-582-7715

ト調査」では、「ホームから転落したことがある」が約三七%、「ホームから転落しそうなことがあった」が約六〇%、転落せずに済んだ理由としては、「杖などを使って自分でわかった」のほか、「周りから声をかけられた」、「体や腕をつかまれたりして止められた」というのがありました。

——目の不自由な人が、ホームの端に向かって歩いていたら、車が来ているのに横断しようとしていたら、どうしたらよいですか。

田中 「危ない！」と叫んでも、ビックリするだけですか

ら、「白杖の人、止まって!」「盲導犬の人、止まって!」と叫んでください。危機一髪のときは、大声で「止まれ!」と叫んでください。

こうした緊急事態に至らないよう、さりげなく見守り、自然な声かけをしていただけたらと思います。

ユーザーには声をかけ 盲導犬には「優しい無視」

——盲導犬を連れてくる人への声かけは、どのようにしたらよいですか。

田中 例えば、横断報道では、「信号が赤になりましたよ」、「青ですよ」と声かけをして

いただければと思います。

困っているようなときは、「何かお困りですか」あるいは「お手伝いしましょうか」と声をかけてさしあげてください。

困っていなかったとしても、声をかけられることによつて、見守ってくれている人がいる安心感が得られます。

——ホームや電車内では、どんな声かけが役立ちますか。

田中 「ホームの端に近づいていますよ」、「電車が来ましたよ」といったように、視覚情報を伝えてください。車中においては、混みあつてると盲導犬が座席を探すのは難しいので、「座席はこちら

です」と、空いている席に案内していただければと思います。

また、バス停では、バスが到着すると、「〇〇行きです」とアナウンスが流れますが、聞き取りにくいことがあるので、バスを待っている間に、「どちら行きをお待ちですか」、「〇〇です」、「そのバスが来たらずりとりがあると、大きな励ましになると思います。

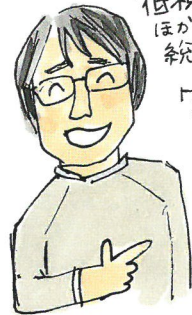
——盲導犬に対して周囲が心がけることは。

田中 ハーネスをつけ仕事をしている盲導犬には、話しかけないでください。ユーザー

以外の方が犬に話しかけたり、触れたりすると、犬の集中力がそがれてしまいます。また、犬によっては、笑顔で見つめられるだけで喜んでしまいます。集中が途切れることがあります。ですから、励ましたい思いをぐっと抑え、「優しい無視」をしていただきたいと思います。盲導犬は、ユーザーをはじめ、みなさんの愛情が十分感じ取れる環境で生活していますから、ご安心ください。

見えにくさのいろいろ (ロービジョン)

かつての「弱視」や「低視力」ほかの総称



「みんな見え方がちがうから、不便さそれぞれなんですわ」

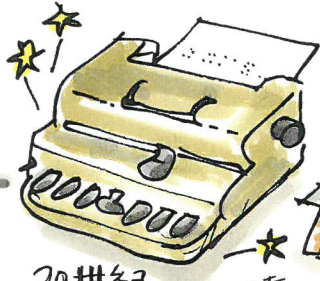
★小宮さん
生活訓練を指導している



①白濁(はつきり見えない) ②求心性視野狭窄 (視界が狭い) ③中心暗転 (まん中が見えない)



交換可★ロービジョンを体験できる「ゴングル」



20世紀

クラシックな点字プリンター

点字ピン (点字端末) ディスプレイ

手で言読み!

★指の配置に合わせた「キーボード」

検索中



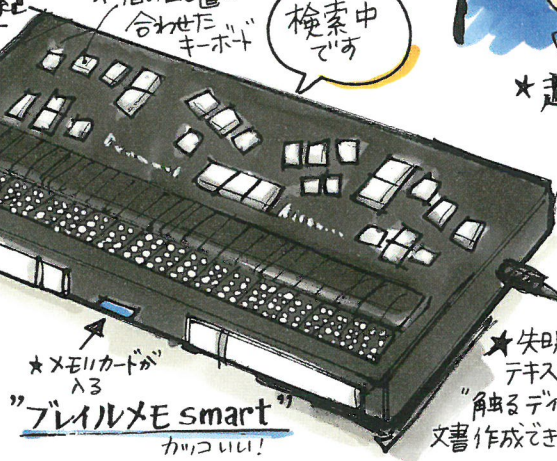
★越山さん

緑内障で25才頃視力を失う。センターには4年前から働き始め、パソコン指導のエキスパート!

音声点字PDA "U2 MINI"



21世紀



★メモカードが入る "ブレイルメモ smart" カッコいい!

★失明した人がテキストデータを読むための"触るディスプレイ" & 文書作成できる"点字のワープロ"

★点字のピンが自重で上下する

明るいフクシ

探検記

おじゃまします!

文・イラスト 伊藤千織



札幌市視聴覚障がい者情報センター

ロービジョンってなに?

現在、全国で視覚に障がいのある人は約31万人。そのうち「全く見えない」全盲の人は全体の2割程度、残りの8割はさまざまな症状により「見えにくさ」を持つ人。「ロービジョン」だという。

あまり馴染みのないこの言葉は、非常に視力が弱い(弱視)・視野が狭い・部分的にしか見えない等、矯正できない視覚の障がいの総称。視覚に障がいのある人のシンボルともいえる「白杖」全盲ではなく、実はロービジョンでも白杖の携帯が道路交通法で義務づけられているということは、今回初めて知った。

加えて視覚に障がいのある人の実に2/3が65歳以上、つまり大部分が高齢者である。原因の多くが、緑内障や糖尿病網膜色素変性症(難病)など、疾病によるもの。その結果、見えにくさから来る日常生活の困難に直面する。体力も衰えつつある人生の後年での障がいは、先天性や若年で視力を失った人とはまた違った苦悩と苦勞が伴うことだろう。

キーワードは「情報」

「視覚障がいには情報障がい」と言われている。人が外界から受ける情報の8割以上は視覚から。視覚の障がいは直接的な身体機能の不自由さもさることながら、視覚情報のインプット・アウトプットの不自由

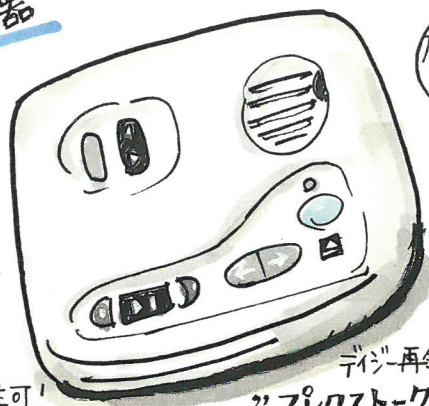
見えづらくても大丈夫!
福祉用具 & 情報支援機器

体験コーナー

① 札幌市視聴覚障がい者情報センター

「そなたさ? さくら〜」
の歌声

★ 日央画の音声も再生可!



デジタル再生機
"PlexTalk"

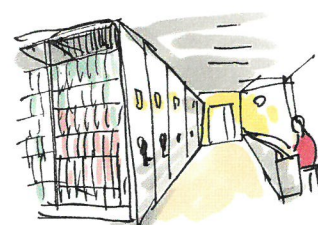
オズの魔法使い
月次

取り出します

第9章
野ねあみの女王

そこで木
ヤマネコが
セリはなさ
足下に転
けりませ

「しおり」を入れて
つぎから再生
できます。



★ 点字図書館も
あるよ!

点字図書
約18万冊

ズーム
調整が
自由自在

子どもの
学力の向
上のた

スクリーンリーダー
"PC-Talker"

★ 画面上の情報を
読み上げてくれる!



表示拡張ソフト

"ZoomText" "情報通信支援用具"

(いわゆる PC 周辺機器や
ソフトウェア)

耳から情報ゲット!

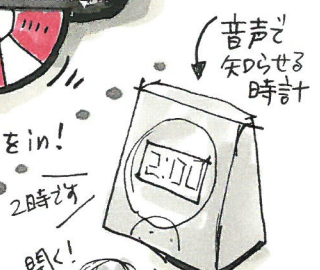
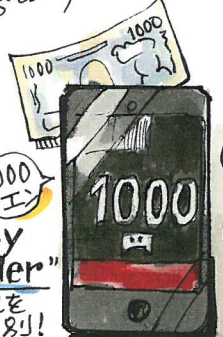
ITでお目かけ!

"My News"

★ インターネットの
新聞を読み上げ
くれるスクレモの
アプリ

"Money Reader"

★ 今のスマートフォンでは、
読み上げ機能が
標準装備。画期的!!



※ 商品!!

さわる
時計

VoiceOver
タッチで読み上げ



めっちゃ操作
速いんですけど〜!

● 札幌市視聴覚障がい者情報センター TEL.011-631-6747
※ 中途失明した方への点字やパソコンの訓練、各種機器の操作体験などができます。

さから起因する困難さでもある。読む・書くといった情報の基本を始め、情報の獲得がなければ状況判断や危険の予知も難しく、発信の手段がなければ動作や表現、ひいてはコミュニケーションも限られる。視覚障がいの情報ツールの代表格「点字」は最もよく知られ普及している反面、習得に訓練と努力が必要であるため、実際の利用者は一割程度にとどまるといふ。

ITが拡げる可能性

一方で、日常生活訓練や支援用具は数多く用意されている。とりわけ現代のスマートフォンやパソコン・インターネットの情報技術（IT）の進歩と普及は、視覚障がいの世界にも大きな変化をもたらした。拡大器などの大型で高価なロービジョンの支援用具もデジタル化されつつあり、パソコンで動く便利な機能のソフトが数多く開発されている。それにより、電子メールやネットニュース、ショッピングサイトの利用や趣味の交流、そして雇用に至るまで、視覚に障がいのある人にとっての情報の主体的な選択肢が広がった。

確実に時代は情報の見えにくさを克服しつつあり視覚に障がいのある人の豊かな内面を、より自由に表現できるようになってきている。同時に「見えている人」ももっと正しく視覚障がいを知る必要がある。まずは、より見つめることから始めよう。



キラッと光るアイデアを広く市民に知っていただくため、例年、本コンテストの入賞作品を、さっぽろ地下街オーロラタウンの展示コーナーに一定期間展示し紹介しています。

(2017.1.7撮影)

当財団では、毎年、小中学生を対象に「安全・快適アイデア」コンテストを実施しています。今回は道内二十四校（小学校十五校、中学校九校）、九百四十八作品の応募がありました。小学生・中学生の部それぞれ最優秀賞、優秀賞、優良賞、佳作、奨励賞が決定しましたので、ご紹介いたします。

(記載の学校・学年は応募時現在)

第21回 小中学生による 「安全・快適アイデア」 コンテスト 入賞者発表

入賞作品は当財団のホームページでもご覧いただけます。

小学生の部

●優秀賞[3作品]

「家庭用スプリングラー」
札幌市立上野幌小学校5年
三浦夏瑠さん

家庭用スプリングラー
①もの説明
「家庭用スプリングラー」は、家庭で使う水圧を上げるための装置です。ポンプハンドルを押すと、水が圧縮され、ノズルから高圧の水が噴射されます。これにより、洗剤を効率的に散布でき、掃除が楽になります。

「119番ブレスレット」
①もの説明
老人が一人で住んでいる家で、たまたま119番に連絡が必要になるのを防ぐための装置です。センサーとセンサーを合わせておくことで、自動的に連絡センターに連絡が行く仕組みです。また、緊急時に自動的に連絡センターに連絡が行く仕組みです。また、緊急時に自動的に連絡センターに連絡が行く仕組みです。

「119番ブレスレット」

北斗市立上磯小学校5年
永田彩乃さん

「安全第一くんくんセンサー」
理由
「安全第一くんくんセンサー」は、火災や地震などの緊急事態が発生したときに、自動的に消防署や警察に連絡が行く仕組みです。また、緊急時に自動的に連絡センターに連絡が行く仕組みです。

「安全第一!くんくんセンサー」

猿払村立鬼志別小学校6年
佐藤朋佳さん

●最優秀賞

「軽々荷物運び機」
①もの説明
手前には、スイッチをONにして、箱の上に小物をのせて、大きい荷物をひかけて、階段の上まで運んでくれる。ついでに手前を回してくれる。約30kgまでの重さにたえられる。箱の上には荷物はおくと、物の重さをはかることができる。

②発案した理由
老人は階段の上り下りがたいていだから、重い荷物をもって階段を上るのは、もったいないかと思ったり、老人は、階段を上るときに手すりを使うから、手すりがきれいだと思ったりしたから。

「軽々荷物運び機」

北斗市立上磯小学校5年 早坂咲希さん

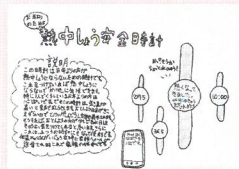
●優良賞[5作品]



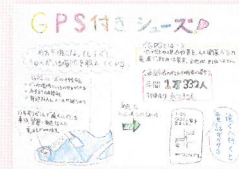
石狩市立南線小学校2年
土田萌絵さん



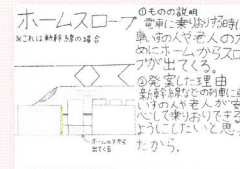
富良野市立東小学校2年
門倉純平太さん



札幌市立上野幌小学校5年
伊藤美唯奈さん



札幌市立北野小学校5年
川口すみれさん



北斗市立上磯小学校5年
岩本昂之さん

■佳作[10作品]

●石狩市立南線小学校2年 加賀谷菜結 ●札幌市立定山溪小学校3年 多田樟太郎 ●江別市立江別第一小学校4年 本多 柚 ●札幌市立上白石小学校5年 込堂愛菜 ●札幌市立上野幌小学校5年 小池悠太 ●北斗市立上磯小学校5年 伊藤愛璃菜、白石瑠璃、曾我陸斗、中村 涼 ●札幌市立平岡南小学校6年 大島進之介

■奨励賞[25作品]

●石狩市立南線小学校2年 井坂芽来、佐藤杏樹、谷坂和音、森 美咲 ●伊達市立星の丘小学校3年 野上さくら ●江別市立江別第一小学校4年 井谷琴羽、金澤夢来 ●札幌市立上白石小学校5年 鈴木里桜、鈴木乃愛 ●札幌市立北野小学校5年 石橋奏空、細谷悠貴、松本莉乃、矢部真翔 ●旭川市立日章小学校6年 蕨口 楓 ●砂川市立豊沼小学校6年 阿部海月 ●猿払村立鬼志別小学校6年 松谷亮汰 ●札幌市立平岡南小学校6年 内藤歩美 ●釧路市立湖畔小学校6年 明石涼音、樋口桃花、藤田明日美 ●北斗市立浜分小学校6年 阿部颯斗、鈴木綾笑、成田実優、奈良藍花、最上凌衣 (敬称略・順不同)

審査委員長 講演

北海道デザイン協議会

名誉会長 大阪 克彦

本事業は二十一回続いていることが認められ、「第一回北海道デザインアワード」で北海道デザイン協議会賞を受賞しました。応募いただいた多くの小・中学生、学校関係者の皆様に審査委員会からお礼申し上げます。

上位入賞の作品は、絵も説明文も良く、人を思いやる優しい気持ちも伝わってきました。審査の結果、小学生の部は階段の手すりに取り付けて重い荷物を運び上げる装置の作品が、中学生の部は電柱等と車にセンサーを付け交通事故を未然に防ごうと考えた作品が最優秀賞となりました。ホームからの転落事故防止、認知症高齢者の見守り、夜間の横断歩道事故防止など、最近のニュースを見て考えたことが作品に反映されていて大変頼もしく思いました。

審査委員

北海道科学大学

名誉教授 菊地 弘明

一級建築士事務所西代企画設計

代表 西代 明子

北海道社会福祉協議会

常務理事 林 光彦

札幌市社会福祉協議会

常務理事 宮川 学

北海道デザイン研究所

所長 佐藤 進

北海道新聞社

編集局生活部 部次長 中原洋之輔
(敬称略/順不同)

中学生の部

●優秀賞[3作品]



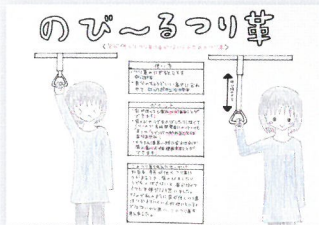
「夜でも明るい横断歩道」

厚岸町立真龍中学校2年 高橋みなみさん



「i set」

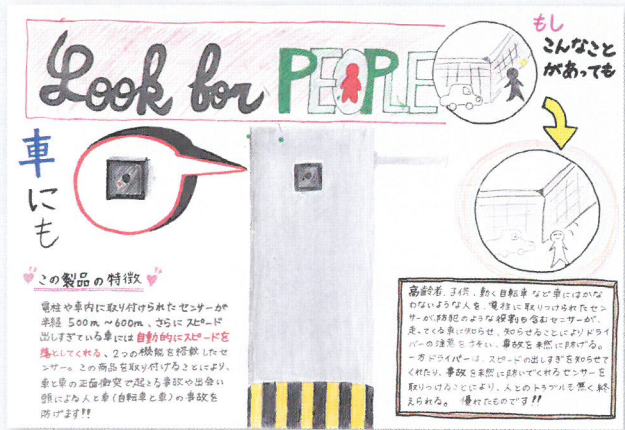
北海道教育大学附属 旭川中学校2年 石井優璃さん



「のび~るつり革」

砂川市立石山中学校3年 宮本瑠花さん

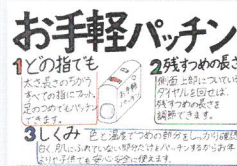
●最優秀賞



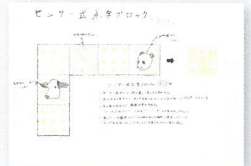
「Look for PEOPLE」

北海道教育大学附属旭川中学校2年 長岡和樂子さん

●優良賞[5作品]



旭川市立愛宕中学校 1年 佐藤巧巳さん



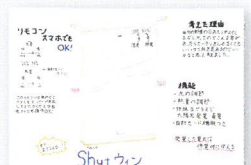
厚岸町立真龍中学校 2年 小林芽菜さん



ニセコ町立ニセコ中学校 2年 北島理子さん



北海道教育大学附属 旭川中学校2年 近野歩未さん



砂川市立石山中学校 3年 伏見萌花さん

■佳作 [10作品]

●旭川市立愛宕中学校2年 小笠原寧音、妻沼空那 ●旭川市立神居東中学校2年 黒瀬翔大 ●北海道教育大学附属旭川中学校2年 広島 怜奈、中條遥香、山崎凜子 ●釧路市立大楽毛中学校3年 丸谷麗音 ●砂川市立石山中学校3年 石橋詩生音、福田歩佳、三浦彩乃

■奨励賞 [10作品]

●旭川市立愛宕中学校1年 柴田爽世 ●旭川市立神居東中学校2年 木本愛咲 ●安平町立追分中学校2年 山本愛耶 ●厚岸町立真龍中学校2年 岩田理希 ●釧路市立大楽毛中学校2年 越後谷雄貴 ●ニセコ町立ニセコ中学校2年 高田咲希 ●北海道教育大学附属旭川中学校2年 石崎颯太郎 ●厚岸町立真龍中学校3年 濱谷陽菜 ●釧路市立大楽毛中学校3年 岩間あゆみ ●壮瞥町立壮瞥中学校3年 藤澤未瑠 (敬称略/順不同)

※ここに掲載のアイデアの無断使用を禁じます。お問い合わせは当発行所(P2)までお願いします。

金沢・愛知の先進的な取組みを視察

福祉住宅建築助成事例集『ふれあい』担当 西村裕広

昨年の11月27日から30日にかけて、当財団恒例の「国内福祉視察研修」を実施しました。総勢8名の視察団を編成し、訪問したのは金沢と愛知です。訪問した施設では先進的で大変優れた取組みを視察することができ、満足度の高い4日間となりました。

利用者さんへの配慮が深まっていると実感

全国から大注目される
自称「ごちゃまぜの町」

今回の国内研修で訪問した施設は、これまでの視察研修の中では最も少ない三カ所でした。前回の国内研修の際も同じ傾向だったので、近年は施設への見学を依頼しても断られることが多くなりました。入所施設は高齢の方や障がい者の皆さんの生活の場ですし、デイサービスなどであっても、見学者が来ることによって利用者さんたちのストレスになる、というのが理由のようです。

視察研修を受け入れてもらう苦労は多くなりましたが、施設の利用者さんに対する配慮がより深くなった、ということなのかもしれません。

当初の予定では、愛知県を中心にした中部地方にて研修を行うことになっていました。早い時期から情報を収集し、ここだ、と思われる施設に対して早々にアプローチしていたのですが、「残念ながら」という返答が続きました。愛知で訪問できる施設が少なくなつたぶん、遠く離れた、「念願の」金沢まで足を延ばすことができました。最近全国から熱い注目を浴びている施設である「シェア金沢」に訪問することができたからです。「シェア金沢」は人気のテレビ番組で取り上げられたり、安部首相が訪問したことなどから大きな話題になっていきます。報道などによって伝えら

れる施設についての様々な情報から、当財団でも関心を持っていました。「シェア金沢」は「施設」というよりも「コミュニティ」と表現したほうがしっくりきます。総面積一、〇〇〇坪の中はエリアに分けられており、中央・西エリアには障がい児や高齢者、そして障がいのない学生がそれぞれ居住しています。本館のある南エリアには、デイサービス、生活介護、訪問介護などの施設のほか、配食サービスも行っているレストランや公衆浴場があります。レストランと温泉は近隣住民も利用ができ、特に天然温泉の公衆浴場は人気が高く、近隣からの利用者が大変多いようです。東エリアには児童発達支援センター、学童保育、グラウンドがあり、北エリアには日



1. 近隣の人たちにも人気の天然温泉。公衆浴場は日本人の交流の原点だ。
2. レストランは敷地の外からまっすぐに入ることもできる通路も設置。
3. 売店などが並ぶ一角。どこかの街角といった風情。(シェア金沢)

常生活に欠かせない日用品を販売する売店やコインランドリーなどのほか、ポディケアやマッサージュの店、カフェバー、お料理教室などの商業施設も立ち並んでいます。このような施設や居住者の構成、そして外部の人たちを受け入れることで、障がいのある人・無い人、そして高齢者が身近に接することができるようになっているのが「シェア金沢」の大きな特徴です。学生が居住するアパートは全戸1DKですが、付近の相場より低価の家賃が設定されています。ただし入居者には月三〇時間のボランティアが必須条件になっています。学生が障がい者や高齢者の身近で生活

するだけにとどまらず、ボランティアを通じてそれらの人々への理解が深まるのはもちろん、施設側としてもボランティアの人材が豊富であることが大変なプラスとなっています。様々な人たちが一緒に生活するノーマライゼーションのコミュニティを実現した「シェア金沢」は、グットデザイン賞、石川景観大賞、医療福祉建築賞など、多くの表彰を受けています。

次に訪問したのは愛知県ほぼ中央、西尾市にある「せんねん村矢曾根」です。

地域の高齢福祉を担う西尾市の心強い味方



1. 入所棟の1つ。昔懐かしい長屋のような趣がある。
2. 施設ではなく集会場のような明るい雰囲気の共用スペース。
3. 4. 食事は同じ食材を、食べる人の咀嚼力や体調に合わせて調理法を変える。(せんねん村)

「せんねん村」は西尾市全域に事業展開しており、高齢者のあらゆるニーズに応えられることを目指している施設です。地域社会とのつながりと共に、地域住民のニーズに応えるための展開を図り、事業所単位で地区町内会に加入し、「困ったことがあったら、せんねん村へ」を合言葉に、地域の相談センターの役割も担っています。

望に添えて認知症型デイサービス、学童保育まで用意しています。敷地や施設に入ると感じるのは、そのぬくもり。建物は和風様式で、木の質感をふんだんに取り入れています。利用者さんが施設でも安らぎと共に暮らせるようにと、そこには強いこだわりがあるそうです。

最後に訪問したのは愛知県半田市にある社会福祉法人「むそう」です。乳幼児から高齢者まであらゆる障がい者が「自分らしい暮らしを、暮らしたい地域で継続できること」を前提に「育む」「働く」「住む」「経験する」に関わる幅広い支援を行っています。他の施設で入所や利用を断られた人も例外なく受け入れていきます。

障がいの可能性を引出す工夫を凝らした就労支援

また利用者の皆さん全員に對して「最後まで口から栄養が摂取できるよう」という目標も掲げています。皆さんの咀嚼力などに応じて食事の調理法を変えるなど工夫を重ねており、私たちも昼食に同じメニューを食べさせていたいただきました。

そうした懐の広いサービスのなかでも、特に注目したのが就労支援です。障がいのある人たちが労働の主戦力を担い、知多半島の広域に飲食店や雑貨店など展開しています。その一つ、「むそう」の本部から車三〇分程走った場所にある「中華茶房うんぼう」とい



1. とても洒落た雰囲気の店内。ある程度まとまった人数でも利用しやすい。
2. 種類豊富なサラダとドリンクはわかり自由。待ち時間への対策だ。(中華茶房うんぼう)

木を基調にしたとてもスタイリッシュなお店で、メインメニューのラーメンを作ってくれるのは、障がい程度区分3〜6のスタッフの皆さんです。調理師さんが考えたレシピに従って、スタッフがそれぞれ持ち場を担当し、おいしいラーメンが完成します。

調理作業を複数で分担し、重い障がいがある人には単純な作業を担当してもらいます。そのぶん一般のラーメン店より完成に時間がかかりますが、先に食べてもらえるサラダバーをセットにするなどの工夫があります。

素材にこだわったラーメンは他店に引けを取らない美味しさで、種類豊富なサラダバーも付くので、私たち団員全員、思わず食べ過ぎてしまいました。工夫を凝らすことで障がい者が生き生きと働き、しっかりと商品やサービスを提供できることを見事に証明しているお店でした。

今回の研修についても、報告書にまとめて詳細をご紹介します。報告書は今年2月末日の発行予定です。



今回の研修団員。総勢8名の旅。

公益財団法人

「ノーマライゼーション住宅財団」の活動を紹介します

小誌『WITH LIFE』^{ウィズライフ}を発行している当財団は平成元年設立、公益に資する法人として、「ノーマライゼーションの理念に基づき、高齢者や障がい者にとっても安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備・向上を通して、すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の増進に寄与する」ことを[目的]に、主なものとして下記の[事業]を行っています。

当財団では、活動理念・趣旨にご賛同いただける方へ、「賛助会員」の入会をお願いしております。詳しくは当財団（2頁参照）へお問い合わせください。

当財団の詳細につきましては、ホームページ（<http://normalize.or.jp/>）をご覧ください。

① 助成金により福祉住宅の建築を支援しています

高齢者や障がい者にとっても安全で快適に暮らせる住宅、また将来身体機能が低下しても安心して生活できる住宅として新築したりリフォームした建築主、およびグループホームや高齢者向けアパートなどの福祉小規模集合住宅の建築主から応募を受け、審査のうえ今後の参考に資する施工物件に対して助成金を給付しております。年一回公募、助成金は一件あたり五〜三〇万円（総額三百万円以内）。審査は大学教授、一級建築士、プロダクトデザイナーなど、建築・福祉に造詣が深い有識者により行われます。本年度も下欄要項の通り募集いたします。どうぞご応募ください。

② 福祉住宅建築助成事例集『ふれあい』を発行しています

前項の助成対象物件の中から、さらに選考された事例を、写真や図面つきで紹介しています。専門家のアドバイスや、工夫した点、実際暮らしてみた感想なども綴られています。

地方自治体および社会福祉協議会など関係諸機関に配付されており、福祉住宅として新築・リフォームを考えている方や関心のある方にお役立ていただいております。

平成二十八年七月に通巻二十七号発行。バックナンバーにつきましては当財団までお問い合わせください。

暮らしやすい住まいづくりに
助成金給付!

平成29年福祉住宅建築助成 応募要項

応募期間 平成29年5月1日～平成29年11月30日

対象 福祉住宅や福祉小規模集合住宅として新築またはリフォームした建築主

助成金 一件あたり5万円から最高30万円までただし、総額300万円の範囲内

応募方法 設計士、施工会社、医療・介護関係者などのアドバイスを含め、福祉住宅として工夫・配慮した点などを当財団所定の申請書に記入し提出。（申請書は当財団ホームページからダウンロード）

審査 当財団委嘱の有識者による審査委員会にて選考

主催 公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

後援 北海道、社会福祉法人北海道社会福祉協議会、札幌市、社会福祉法人札幌市社会福祉協議会、北海道デザイン協議会

応募先 公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団
〒060-0042
札幌市中央区大通西16丁目2-3
ルーブル16 9階
TEL.011-613-7551
FAX.011-612-8431
URL <http://normalize.or.jp/>

ノーマライゼーション住宅財団

[目的]

ノーマライゼーションの理念に基づき高齢者や障がい者が安全で安心して快適に暮らせる住生活環境の整備・向上を通して、すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと社会福祉の増進に寄与

*ノーマライゼーションとは：
高齢者や障がい者も社会で共に暮らし、共に生きることがノーマル(正常)である、という考え方

[事業]

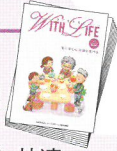
福祉住宅の建築に関する助成及び情報提供事業

- 1 助成金による福祉住宅建築支援
- 2 福祉住宅建築助成実例集『ふれあい』発行



ノーマライゼーション理念の普及啓発事業

- 3 広報誌『WITH LIFE 共に生きる』発行
- 4 小中学生による「安全・快適アイデア」コンテスト
- 5 福祉事情に関する情報収集及び提供



[対象]

建築系・福祉系
教育研究機関

地方自治体
建築部門

福祉住宅
施工会社

福祉住宅
建築主

一般市民

福祉団体

社会福祉
協議会

地方自治体
福祉部門

小中学生
学校教員

ノーマライゼーションの定着

社会福祉の増進に寄与

3 広報誌『WITH LIFE』共に生きる』を発行しています

生涯、快適に暮らしたいをテーマに、ノーマライゼーションの理念と実践を紹介する当財団の広報誌です。

ノーマライゼーションを実践されている方々による具体策、また、関連事例、関連情報源、福祉住宅の実例などの役立つ情報を紹介しています。

原則年二回刊、地方自治体および社会福祉協議会など関係諸機関に配付されています。

平成二十九年四月、本号、通巻四十五号発行。バックナンバーにつきましては当財団までお問い合わせください。

4 小中学生による「安全・快適アイデア」コンテストを実施しています

お年よりや障がいのある人が安心して快適に生活できるための、身近な道具・用具、また安全に外出を楽しめる環境づくりなど、様々な「安全・快適アイデア」を小中学生から絵と文字で提案してもらっています。

年一回、応募を受け、有識者の審査により選考された入賞作品は小誌『WITH LIFE』に掲載(本号14頁参照)、また、さつぽろ地下街オーロラコーナーにて展示。当財団ホームページでもご覧いただけます。
なお、当事業は長年の実績が評価され「第一回北海道デザインアワード」において北海道デザイン協議会賞を受賞しました。

■小中学生による「安全・快適アイデア」コンテスト応募要項

- 「応募資格」小・中学生の皆さん
- 「規格」画用紙(八つ切り)。画材は自由
- 「募集期間」平成二十九年六月二日～十月三十一日
- 「応募方法」一人一点。所定の応募票(当財団ホームページからダウンロード)に必要事項を記入し、作品の裏に添付
- 「賞」最優秀賞一点、優秀賞三点、優良賞五点、佳作十点
- 「作品送付・問合先」当財団へ(2頁参照)

5 福祉事情に関する情報収集及び提供をします

福祉全般に関する情報収集を目的として、有識者や福祉関係者などに呼び掛け、各地の福祉施設や福祉事情などを視察し、『WITH LIFE』等でレポートを発表しています。
昨年十一月に実施した「金沢、愛知福祉視察研修」(本号16頁参照)の報告集が発行されており(無料)。ご希望の方は当財団までご連絡ください。



生涯、快適に暮らしたい。